

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年7月25日 (2013.7.25)

【公開番号】特開2012-250075(P2012-250075A)

【公開日】平成24年12月20日 (2012.12.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-054

【出願番号】特願2012-209051(P2012-209051)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【 F I 】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成25年6月10日 (2013.6.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 1 】

この発明は、始動口への入賞を契機として当落抽選を行い、この当落抽選の結果に応じて特別遊技が付与される遊技機に関する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 2 】

従来、遊技機として、遊技球が始動入賞口に入賞したことにもとづいて表示器にて図柄の変動表示を行って所定期間経過後に表示器に図柄を停止表示させ、表示器に停止表示される図柄が特定の表示態様となったときに大当り遊技状態に制御することにより遊技者に利益を付与するものがあった。また、この種の遊技機では、表示器にてリーチ態様が形成された場合、当該リーチ態様を形成してから図柄を停止表示するまでの期間に、大当り期待度の度合いを告知するリーチ演出（例えば、ノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出）を随時、実行するものがある。ここで、リーチ態様とは、表示器におけるいずれかの表示ラインにて所定数の図柄が停止表示され、当該表示ラインにおける全ての図柄が停止していない状態であって、未だ停止していない図柄が所定の図柄で停止することにより当該表示ラインに停止表示される図柄が特定の表示態様となる状態をいう。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 4 - 2 0 2 1 1 0 号公報

【特許文献 2】特開 2 0 0 6 - 5 1 0 9 7 号公報

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

従来の遊技機では、リーチ演出が特定の表示態様の導出に関連して実行されており、演出時間の経過に伴ってリーチ演出が順次展開されるほど、遊技者は大当り遊技状態に対する期待感を高めることができる。すなわち、大当り遊技状態に制御される場合には、長い演出時間（図柄を停止表示するまでの期間）に対応したリーチ演出が展開される割合が高い一方で、大当り遊技状態に制御されない場合には、リーチ態様が形成されたとしても、短い演出時間に対応したリーチ演出が展開される割合が高い。

しかしながら、長い演出時間に対応したリーチ演出が展開されたとしても、大当り遊技状態に制御する設定確率が然程高くないことから、結果として特定の表示態様が導出されないことも多い。そして、長い演出時間に対応したリーチ演出が展開されたにも関わらず、結果として特定の表示態様が導出されないと、大当り遊技状態に対する期待感が高められた分だけ遊技者の落胆も大きくなってしまう。このため、遊技者がリーチ演出に対する興味を失い、遊技が単調となり、遊技の興味が低下してしまうことがあった。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明は、上記した事情に鑑みなされたもので、その目的とするところは、遊技者が大当り遊技状態に対する期待感を減退させることのない演出を実行し、遊技の興味の低下を抑制することのできる遊技機を提供することにある。